

マンモグラフィと乳房超音波併用の 乳がん検診について



併用検診には利点だけでなく欠点・問題点もあります

利点

●適切な精度管理の下であれば併用することによって検診の感度上昇があり、早期乳がん発見に有用です(日本乳癌学会乳癌診療ガイドライン 2022 より)

https://jbcs.xsrv.jp/guideline/2022/k_index/cq1/

欠点・問題点

- 偽陽性率が上昇するため、精密検査や不要な治療が増加する可能性がある
- マンモグラフィ単独検診と比較して、マンモグラフィ+乳房超音波併用検診により乳がんによる死亡が減少することを示すあきらかな証拠はまだ確認されていない



40歳以上の女性に対するマンモグラフィによる乳がん検診は有効性が証明された唯一の検診方法です

標準的な乳がん検診では、問診とマンモグラフィを行います。医師による視触診のみの乳がん検診は有効性が否定されたため、現在は行いません。

マンモグラフィ検診で見つかりにくいタイプの乳がんもあります

乳房内に脂肪が少ない高濃度乳房という乳房タイプの方はマンモグラフィで乳がんが見つかりにくい傾向があります(高濃度乳房は「個性」であり病気ではありません)。この欠点をマンモグラフィと乳房超音波検査の同時併用で克服できるかどうかについて、大規模な臨床研究が行われました。



その結果

- ① マンモグラフィと乳房超音波を併用するとマンモグラフィ単独より早期乳がん発見の可能性が高くなること(=感度の上昇)という利点が明らかとなりました
- ② 併用検診では偽陽性が増える傾向があり精密検査の増加(=特異度の低下)や、治療の必要のないものを手術するという過剰診療が増加するという可能性があります
- ③ 併用検診が乳がん死亡率の低下をもたらすかどうかはまだ証明されていません。
- ④ このため対策型の乳がん検診として、マンモグラフィ+乳房超音波同時併用検診は推奨されていません(自治体によっては併用検診をおこなっています)
- ⑤ 日本乳癌学会乳癌診療ガイドラインは2022年改訂版からマンモグラフィ+乳房超音波同時併用検診が適切な精度管理で行われるのであれば「行うことを弱く推奨する」に変更されました(旧ガイドラインでは「行わないことを弱く推奨」)

併用検診をご希望のかたは利点と欠点・問題点があることをご理解ください